

〒445-0847 愛知県西尾市亀沢町480番地 鶴城公園内

西尾市立博物館 岩瀬文庫 TEL 0563-56-2459

文化財担当主査 学芸員 林知佐子様

にお尋ねいたします

貴女は、平成27年12月14日BS11（オフィストウ・ワン）放映のとことん歴史紀行・忠臣蔵異説「吉良は悪者だったか」のテレビ番組内で、赤穂義士たちの行動を「あれはテロ行為」とはっきり明言されていました。そこで、いくつかお尋ねいたしますが、どうか、御回答下さいますよう、お願い申し上げます。

- 質問（1） 旧幕時代のたくさんございました仇討ち事件は、あれらは全部テロなのでしょうか。？
- 質問（2） 戦国時代の合戦は、テロと呼ぶべきなのでしょうか？
- 質問（3） 戦国時代の争いと江戸時代の仇討ちは、どこかで分けられる線があるのでしょうか。？
- 質問（4） 史実の分野は、証拠や史料によって証明されなければなりません。吉良上野介が名君であったとする史料等は現存するのでしょうか。？
- 質問（5） 吉良上野介は、ドラマ以上の悪人とする江戸時代の事件関係者が著した一級史料（例えば津軽信政著「貞享規範録」）等に反論していただけないのでしょうか。？

御多忙の事と存じますので、とりあえず5つの質問に明確にお答え下さい。

我々、赤穂義士の史実を学んでいる者たちにとって、研究対象の人物をテロ呼ばわりされることは、大変迷惑をしております。我々はテロの研究をしている訳ではございませんので。

中島康夫



発行人

〒104-0052

東京都中央区月島3-15-9

全義連事務局

TEL 048-973-3777

編集者 中島康夫

ホームページ

忠臣蔵会館

出版・校正・協力

テレビ製作協力

講演・史跡案内

<http://www.chuushingura.net/>

平成三十年度は
「年譜忠臣蔵」
の発行を予定しております

「堀内伝右衛門像 建立趣意書」

今を去ること三百有余年 日本中を揺るがす大事件 それは江戸城松之廊下で播州赤穂藩主浅野内匠頭が高家筆頭吉良上野介に刃傷に及んだ赤穂事件の始まりでした

そこから大石内蔵助はじめ赤穂浪士達の苦難の日々が始まりますが 翌元禄十五年十二月十四日 主君内匠頭の仇討ちを果します

その後義士四十六名は四大名家にお預けになり 肥後細川家には大石内蔵助はじめ十七名の義士がお預けになりました

藩主細川綱利公は義士を手厚く持て成すように家来に命じます そのお世話役に現山鹿市杉に知行地を持つ堀内伝右衛門勝重その人がおりました

伝右衛門は主人に迷惑が掛からぬよう全てを自分の責任において行動し 又義士達から討入りの様子を聴き取り約五十日の間 心を込めて義士のお世話をいたしました

そしてまとめた「浅野内匠頭様御家来御預りの節覚書」いわゆる「堀内伝右衛門覚書」を残しました これこそ赤穂事件を知る貴重な史料となりました

翌元禄十六年二月四日 義士切腹の後十七名の遺髪を知行地内の日輪禅寺に持ち帰り供養塔を建立 晩年は山鹿に移り住み最後まで義士の菩提を弔いました ご夫妻の墓は死してなお今も遺髪塔を見守っておられます

主君の名誉の回復の為に命も家族も投げ捨て仇討ちを果した赤穂義士四十七士に勝るとも劣らぬ「義」と 武士として人として「情」に溢れる日本人の鑑 自分の余生全てを義士の為に尽した堀内伝右衛門

今人として互いを思いやる心を無くした この世の中に大切にしなければならないことを教えてくれている堀内伝右衛門を顕彰し 後世に伝え続ける為に この度像を建立するはこびとなりました

三百有余年を経ても尚人々に語り継がれる「忠臣蔵」(赤穂事件)を支えてきた この人なくしては 今の世までも残ることはなかったことでしょう

どうぞ皆様方には この熱き思いをご理解いただいて お力添えご協力を心よりお願い申し上げます

発起人代表 元山鹿市長 河村修

他発起人一同

連絡先

山鹿支部 宮川政士

TEL 0968-43-2211

FAX 0968-44-0247

内藤忠勝事件

理事長 中島康夫

平成二十六年十一月、赤穂市教育委員会より講演を依頼されていた件もあり、中央義士会の仲間と赤穂市を訪れた。

その際、見学で訪れた高光寺の住職三好一行様より一冊の御本を頂いた。(感謝)

その本は、

「洋泉社歴史新書 氏家幹人著

幕臣伝説―史実と噂のはざま

平成二十六年十月二十二日発刊」

という江戸時代の幕臣について二十三話をまとめた冊子である。その一節に、

例の内藤忠勝事件の一話があったわけだが、帰京して一読し、おどろきと共に氏家幹人先生にどれ程感謝しても感謝しきれない程、気持ちが高ぶっていた。それは、

第八話「増上寺刃傷事件の真相」と題して、その事件の原因が、内藤忠勝の精神的障害でなく、隣人トラブルによる怨恨であったからである。

従来、多くの作家、評論家、マンガ家がテレビ等でこれみよがしに、内藤忠勝が精神障害であるから、その甥である浅野内匠頭も精神障害を受け継いで松之廊下事件を起こしたと、主張してきていたから

である。

それが、氏家先生のこの一節で見事に覆ったのである。

そもそも、この内藤忠勝事件は松之廊下事件が起こる二十一年前、すなわち延宝八年六月二十六日、増上寺の方丈で起きた、大名同志の切り付け事件である。四代将軍家綱の法事の用意の最中、志摩鳥羽三万五千石当主内藤忠勝が、丹後宮津七万三千六百石の当主永井尚長に切り付けた事件である。

永井尚長は絶命し、内藤忠勝は翌日幕命により芝青龍寺で切腹して果てた。

現在まで、この事件を「徳川実紀」が示してきた「忠勝失心」。同じく「柳宮日次記」では「忠勝乱心」。これらの史料を錦の御旗として得意げに話すマンガ家たちを我々は、どんなに今まで、にがにがしく思ってきたか。

このたび、氏家先生の調べでは、

●旗本大野広城が編集した「泰平年表」では「兼々意趣有り之」(前から怨みを抱いていた)

●儒者松崎観瀾著「窓のすさみ」

「物見の作事付意趣有り之(物見建築に怨み)」

●鳥羽市史「久夢日記」

第一幕「吉原通いで大名同志の喧嘩」

第二幕「物見台・茶屋の撤去要求」

第三幕「増上寺でのいじわる」

●「続古今武家盛衰記」(前車後語集)

「法事当日雨天につき雨具の件」

結局、「失心」でも「乱心」でもなく、忠勝は日頃の怨恨で切り付けたのだと、氏家先生は、大変ありがたい発見を並べていただいた。

そこで、我義士会では、平成二十八年四月早速、神田探索「新しい忠臣蔵」と題して見学会を催して会員を案内した。

そこには、示した図のごとき永井信濃守邸の位置、そして内藤和泉守邸の位置が確認でき、それらの屋敷間には、争いの元となった「観音坂」が現存していた。勿論、江戸時代には、「前車後語集」で述べられている「是ゾ意趣ノ種トナル」坂であったのだと思われるが、現在では、観音坂は舗装されきれいに整備されていた。

しかし、このたびの氏家幹人先生の発見は、元禄事件を学ぶ者、検証する者たちには、どれ程大きな発見か計り知れないのである。お礼を申し上げたいし、表彰もしたいくらいである。

氏家先生は、テレビ出演してタレント化している学者よりは、はるかに確かである。

先生には、平成八年出版、旗本天野弥五右衛門の晩節「元禄養老夜話」の時も、大変なヒントをいただいて「易水連袂録」の作者につながった経緯がある。「元禄養老夜話」も又名著である。



忠臣蔵愛好会の報告

理事 遠藤信夫

第二十一回忠臣蔵愛好会が、「元禄忠臣蔵の世界」と題して、平成二十九年十一月五日に新橋の浜離宮恩賜庭園において行われました。

浜離宮恩賜庭園は、昭和二十七年に「旧浜離宮庭園」として、国の特別名勝及び特別史蹟に指定された、徳川将軍家ゆかりの庭園です。

良い天候に恵まれた当日、二三名が参加し、都のボランティアガイドの方に二グループに分けて案内をしていただきました。

庭内に残る、将軍お上がり場（将軍が舟に乗降する場所）、中島の御茶屋（宝永四年に造られ、将軍をはじめ奥方、公家たちが庭園を眺められた）、松の御茶屋、燕の御茶屋（十一代将軍家斉の時代に立てられたものを忠実に再建）、鴨場跡、三百年の松（今から三百年前、六代将軍家宣が庭園を大改修したとき、植えられた松）などを充分時間をかけて、資料を参考に説明をしていただきました。

その後、中島理事長より、NHKテレビで放映された、「忠臣蔵の恋」について解説していただき、質疑応答後庭園を後にして、浜大手門石垣前で解散しました。「忠臣蔵の恋」は脚本家の吉田紀子氏が、中央義士会の勉強会に参加され書かれたものです。物語は、主人公の浅野家に使える娘「きよ」が儀員十郎左衛門と恋仲になり、討入り後、大奥に上がり、六代将軍家宣の側室（月光院）となって七代将軍家継を産む話です。

この庭園は、よく劇場で演じられる、眞山青果の「元禄忠臣蔵」の舞台となる場所で、劇中では、甲

府宰相綱豊（後の六代将軍家宣）の離宮でした。



浜離宮恩賜庭園案内図
(ホームページ「公園へ行こう」より)

ここは、江戸時代は芝浜といわれ、寛永の頃までは、将軍の鷹狩りの場所でした。四代将軍家綱の時、家綱の弟綱重が下屋敷としていましたが、その子綱豊が六代将軍となると、西丸御用屋敷と称した後、浜御殿と改められました。浜大手門石垣は、浅野長澄が宝永四年に構築したものです。また、大手門は左折枱形構えで、江戸城三十六見附の一つでもあります。

なお、月光院は実際は、浅野家に使っていた女性ではなく、その妹の「喜世」のことです。
天候もよく、紅葉も丁度始まり、美しい景色も楽しめた有意義な一日でした。

赤穂義士討入り満三二五年祭報告

平成二十九年十二月十四日（木）は、赤穂義士討入り満三二五年目に当たり、泉岳寺において、赤穂義士追憶の会が催されました。明治四十三年に福本日南翁が開始して以来、今回で百七年目の開催となります。

当日は木曜日でしたが、六十名を超える方々の参加があり、会場は大変賑わいました。

午後二時から泉岳寺本堂において、赤穂義士の法要が行われました。



本堂での法要

神田松之丞氏は、今、テレビに引つ張りだことなっ



神田松之丞氏の熱演

その後本堂横の庫裏において、例会が行われました。まずは、来賓の挨拶に続き、今年で三回目の登場となる、神田松之丞氏に「神崎与五郎わび証文」をつくりと語って頂きました。



12月14日の泉岳寺の庭
(白いテントが中央義士会の受付と本販売所です)

なお、十二月九日、十日の二日間、両国で元禄市が行われました。中央義士会も例年通り、本販売や「赤穂義士何でも相談室」を開催しました。

(文・写真 荻原)



泉岳寺での本販売

ている若手講師のホープです。氏の熱演に参加者一同多いに盛り上がりました。つづいて、御子孫の紹介と忠臣蔵検定試験合格者の認定証授与がありました。また、お楽しみ抽選会で豪華賞品などが当たり、今年も盛会裡に幕を閉じました。今年もいつもの二倍のスペースを利用して戴き、泉岳寺様に御礼を申し上げると共に、ご不便をおかけした皆様にお詫び申し上げます。



元禄市での本販売



元禄市の様子
(左端のテントが中央義士会のテントです)

第14回忠臣蔵通2級検定試験問題

[申込方法]

・ 解答用紙の請求

検定試験の受験をご希望の方は、住所、氏名、電話番号、FAX番号並びに、第14回2級検定試験申込と記入した用紙を、下記宛てFAXまたは郵送でお送り下さい。FAXをお持ちの方は、できるだけFAXをお願い致します。また、メールでも受け付けております。折り返し解答用紙をお送り致します。

宛先 〒135-0047 東京都江東区富岡1-17-1-403

NPO法人 忠臣蔵倶楽部

TEL/FAX 03-3630-1927

メール office@chuushingura.jp

・ 受験料と振込先

2級の受験料は2000円です。振り込みで受験申込となります。

郵便局の青色の払込取扱票で下記へお振り込みください。

NPO法人 忠臣蔵倶楽部 00190-0-346038

払込取扱票の通信欄に「第14回2級試験申し込み」と記入下さい。

複数名を1枚の払込取扱票で申し込まれる場合は、受験者全員のお名前を通信欄に記入下さい。

払込料金をご負担をお願いしております。

[解答の送付]

- ・ 解答はFAXで下記へお送りください。郵送の場合は、下記の中央義士会事務局へお送りください。メールでは受け付けておりませんのでご注意ください。

FAX 048-973-3790

宛先 〒343-0032 埼玉県越谷市袋山 58-12

中央義士会事務局分室

- ・ 合否は11月になってからお知らせ致します。

[注意事項]

- ・ 合格点は80点です。24問以上正解で合格となります。
- ・ ご自宅で資料を調べて解答していただいて結構です。
- ・ 試験問題を調べるために、お電話等で各施設へ直接問い合わせることはおやめ下さい。
- ・ 同じく、会員、受験者同士でも試験のための連絡はおやめ下さい。特に申し上げるのは、連絡しあっている方は、同じ答えで間違っているのですぐにわかります。
- ・ 問題をよく読んで、一言一言理解した上で、解答して下さい。問題を読み間違えないようお願い致します。ひっかけ問題も出題されています。
- ・ 記入問題については、解答用紙以外に別紙を添付していただいても結構です。
- ・ 受験料は締め切りの1ヶ月前までにお納め下さい。
- ・ 最終提出日は、平成30年10月末日です。

平成29年12月

第1問	<p>「鬼ヶ島」とは、江戸のどこにあったでしょうか。</p> <p>① 呉服橋 ② 鍛冶橋 ③ 本所 ④ 一本松</p>
第2問	<p>大石内蔵助が松之廊下事件後、二度目に江戸の土を踏んだ日は、何日でしょうか。</p>
第3問	<p>大石内蔵助の二度目の東下を当てに、同志に借金を申し込んだ義士がありますが、どなたでしょうか。</p>
第4問	<p>「ヒキガエル」といえば、どなたを思い出されますか。</p>
第5問	<p>「三味線堀」の市兵衛と知り合いの方はどなたでしょうか。</p>
第6問	<p>細井広沢は、将軍綱吉と対面したことがあったでしょうか。</p> <p>① あった ② ない</p>
第7問	<p>主に江戸時代の関所は、フリーパスの方がおりました。下記のどれでしょうか。</p> <p>① 猿回し ② 坊主 ③ 武士 ④ 女性</p>
第8問	<p>京都岩屋寺に「浅野内匠頭」の画像を納めた方はどなたでしょうか。</p>
第9問	<p>「腹巻き」といえば、どなたを思い出しますでしょうか。</p>
第10問	<p>「源助」の評判が悪いのはどうしてでしょうか。</p>

第11問	「森助」とはどなたのことでしょうか。
第12問	「牛門」と呼ばれる謂われは何故でしょうか。
第13問	赤穂義士の引揚げ時「籠」はいくつあったでしょうか。 ① 5つ ② 6つ ③ 7つ ④ 8つ
第14問	松之廊下で梶川與惣兵衛が浅野内匠頭を止めてしまった理由を示して下さい。
第15問	松之廊下事件時の、吉良上野介の本座はどこでしょうか。
第16問	近年、洋画版の「忠臣蔵映画」が3本程制作されていますが、いずれも成功していません。どうして成功しないのでしょうか。
第17問	「三度の嘆願」とはどのようなことをいっているのでしょうか。
第18問	大石内蔵助第一次東下り（元禄14年）で、一番大事なことを一つ挙げて下さい。
第19問	吉田忠左衛門の兵学の師はどなたでしょうか。
第20問	「門了」（もんりょう）とはどなたのことでしょうか。
第21問	赤穂城はどうして天守台に城を築かなかったのでしょうか。

第22問	寺田九兵衛とはどなたの身内の方でしょうか。
第23問	義士中村勘助の赤穂での菩提寺はなんというお寺でしょうか。
第24問	討入り後、寺坂吉右衛門は先ずどこを目指して急いだのでしょうか。
第25問	討入るまでの赤穂浪士は、上方（京都・大坂）と江戸ではそれぞれ偽名を替えていたことは何の史料群でわかるのでしょうか。
第26問	大石内蔵助は、収城使の荒木十左衛門らをどこまでお迎えに出たのでしょうか。
第27問	討入りの際の裏門大将はどなたでしょうか。
第28問	いつまでも、ありもしないお芝居を崇める日本人をどう思いますか。感想をお聞かせ下さい。
第29問	現在の泉岳寺の面積は、7000坪程の広さですが、元禄当時は何坪くらいあったのでしょうか。
第30問	鏡照院はどこの親寺の塔頭でしたでしょうか。親寺の名を記して下さい。

- なるべく期限ギリギリまで努力してご提出下さい。
- 答えが不明の問題もございます。その場合、不明もしくは不知と書いて下さい。
- 文章で答える問題はなるべく短く簡潔にお答え下さい。解答にならない分かりきっていることは書かないのがコツです。
- 採点が△印の場合もありますが、その場合は△が2つで1問正解とします。
- 中央義士会の過去の出版物でも誤記はありますので充分確認の上、解答して下さい。

平成28年1月以降出版された「忠臣蔵」関係新刊本

書名	編著者	発行所	価格
変貌する時代のなかの歌舞伎―幕末・明治期歌舞伎史―	日置貴之著	笠間書院	7,020円
大研究 歌舞伎と文楽の図鑑	国土社編集部編	国土社	4,104円
武士はホントに自分で切腹したか	歴史の謎を探る会編	河出書房新社(KAWADE夢文庫)	670円
江戸の悪 ―浮世絵に描かれた悪人たち―	渡邊 晃著	青幻舎(ビジュアル文庫)	1,620円
江戸大名 お家滅亡	歴史REAL編集部編	洋泉社(歴史新書)	972円
「時代映画」の誕生 ―講談・小説・剣劇から時代劇へ―	岩本憲児著	吉川弘文館	4,860円
演劇界 2016年10月号	演劇出版社編	演劇出版社	1,450円
最悪の將軍	朝井まかて著	集英社	1,728円
バンカル No.101 2016年秋号 ―播磨事典 下―	姫路市文化国際交流財団編	神戸新聞総合出版センター	740円
忠臣蔵から村文書まで ―西播磨のアーカイブ―	たつの市立龍野歴史文化資料館編	たつの市立龍野歴史文化資料館	1,000円 (送料別)
週刊 ビジュアル 江戸三百藩 第53号	ハーパーコリンズ・ジャパン編	ハーパーコリンズ・ジャパン	600円
殿、ご乱心でござる	中山良昭著	洋泉社(歴史新書)	1,026円
山鹿素行	赤穂市立歴史博物館編	赤穂市立歴史博物館	1,100円 (送料別)
新編忠臣蔵 上・下	吉川英治著	1万年堂出版	各1,728円
雄山閣アーカイブス歴史編 敵討の歴史	大隈三好著	雄山閣	2,592円
日本文学全集10 仮名手本忠臣蔵ほか	池澤夏樹編	河出書房新社	3,780円
演劇界 2016年12月号	演劇出版社編	演劇出版社	1,450円
七つの忠臣蔵	吉川英治ほか著	新潮社(新潮文庫)	594円
忠臣蔵大全	藤田 洋著	KKロングセラーズ	1,080円
演劇界 2017年1月号	演劇出版社編	演劇出版社	1,700円
俳諧忠臣蔵	三輪三郎著	NPO法人忠臣蔵倶楽部	1,400円
EIWA MOOK よくわかる江戸三百藩	4tune box編	英和出版社	647円
国立劇場・歌舞伎の型1 仮名手本忠臣蔵	国立劇場芸能調査室編	雄山閣	1,944円
歌舞伎の音楽・音	配川美加著	音楽之友社	4,860円
演劇界 2017年2月号	演劇出版社編	演劇出版社	1,450円
八代目市川團十郎 ―気高く咲いた江戸の花―	木村 涼著	吉川弘文館	3,024円
時空旅人 2017年3月号 江戸の町づくり。	プラネットライツ編	三栄書房	780円
堺屋太一著作集 第6巻 峠の群像(上)	堺屋太一著	東京書籍	4,536円
堺屋太一著作集 第7巻 峠の群像(下)	堺屋太一著	東京書籍	4,536円
ストーリーで楽しむ日本の古典 仮名手本忠臣蔵	石崎洋司著	岩崎書店	1,620円
洋泉社MOOK 浮世絵と古地図でたどる江戸の名所	武内孝夫ほか執筆	洋泉社	1,404円
別冊宝島2555号 江戸の事件簿	菅野俊輔監修	宝島社	1,080円
決戦! 忠臣蔵	諸田玲子・葉室麟ほか著	講談社	1,674円
雄山閣アーカイブス資料編 江戸時代年鑑	遠藤元男著	雄山閣	3,888円
秘伝・日本史解読術	荒山 徹著	新潮社(新潮新書)	864円
決定版 日本の剣豪	中嶋繁雄著	文藝春秋(文春新書)	918円
戦国武将の辞世 遺言に秘められた真実	加藤 廣著	朝日新聞出版(朝日新書)	820円
かぶきがわかるねこづくし絵本1 仮名手本忠臣蔵	吉田 愛絵・文	講談社	1,728円
火 みちのく―関忠臣蔵	小野寺 葵著	勝どき書房	2,160円
江戸の「事件現場」を歩く	山本博文監修	祥伝社(祥伝社新書)	864円
赤穂義士と陰の義侠伝	平岡一二著	文芸社	1,620円
「江戸大名」失敗の研究	瀧澤 中著	PHP研究所(PHP文庫)	842円
ハーバード日本史教室	佐藤智恵著	中公新書ラクレ	885円
歴史・時代小説 縦横無尽の読みくらべガイド	大矢博子著	文藝春秋(文春文庫)	788円
彷徨える日本史―翻弄される赤穂の浪士たち―	源田京一著	幻冬舎	1,620円
森家の討ち入り	諸田玲子著	講談社	1,566円
東大教授の「忠臣蔵」講義	山本博文著	KADOKAWA(角川新書)	950円
武士神格化の研究	高野信治著	吉川弘文館	17,280円

- ・市販されていない著書もございます。
- ・一部、再版の冊子も載せております。
- ・その他、ほんの一部だけ元禄事件を扱っている出版物で除外している著書もございます。
- ・この一年間で、この他に出版された忠臣蔵物、あるいは元禄事件関係の書物をご存じの方は、ご教授下さい。
- ・本頁に関して、赤穂市教育委員会生涯学習科小野真一氏の協力を得ました。

生き残った赤穂義士

寺坂吉右衛門最終章

平成30年度発刊予定

中島康夫著

50年にわたる、研究成果です。

寺坂吉右衛門の全てが分かる決定版です。

寺坂逃亡説の方々、この内容を知らずして何を語らんやです。

平成30年12月14日発刊予定 1000部限定

定価 2000円(予定) 送料 350円

2冊以上の郵送料は、お問い合わせ下さい。

10冊以上の場合、1冊あたり1600円(予定)です。郵送料は無料です。

お申し込みは下記へお願いいたします。

郵便振替用紙での振り込みがお申し込みとなります。振込順にお送りいたします。

郵便局の払込取扱票(青色)で

(加入者名) 中央義士会

(口座番号) 00250-9-139100

にお振り込み下さい。通信欄に「寺坂吉右衛門」と部数をご記入下さい。

編著・出版 NPO法人 忠臣蔵倶楽部

制作・販売元 中央義士会

全国義士会連合会

1. 赤穂義士会	〒678-0233 兵庫県赤穂市加里屋中州3-56 赤穂市史編纂室内	電話 0791-43-6848
2. 赤穂義士顕彰会	〒678-0235 兵庫県赤穂市上飯屋129 大石神社内	電話 0791-42-2054
3. 京都山科義士会	〒607-8308 京都府京都市山科区西野山桜ノ馬場町116 大石神社内	電話 075-581-5645
4. 京都義士会	〒606-8352 京都府京都市左京区仁王門通東大路東入ル 北門前町 本妙寺内	電話 075-771-2244
5. 大阪義士会	〒543-0074 大阪市天王寺区六万休町1-20 吉祥寺内	電話 06-6771-4451
6. 北海道義士会	〒073-0106 北海道砂川市空知太444の1 北泉岳寺内	電話 0125-53-3513
7. 笠間義士会	〒309-1611 茨城県笠間市笠間323 真浄寺内	電話 0296-72-0090
8. NPO法人 忠臣蔵倶楽部	〒135-0047 東京都江東区富岡1-17-1-403	電話 03-3630-1927
9. 中央義士会	〒104-0052 東京都中央区月島3-15-9	電話 048-973-3777